

ヤングケアラーに係る実態調査について

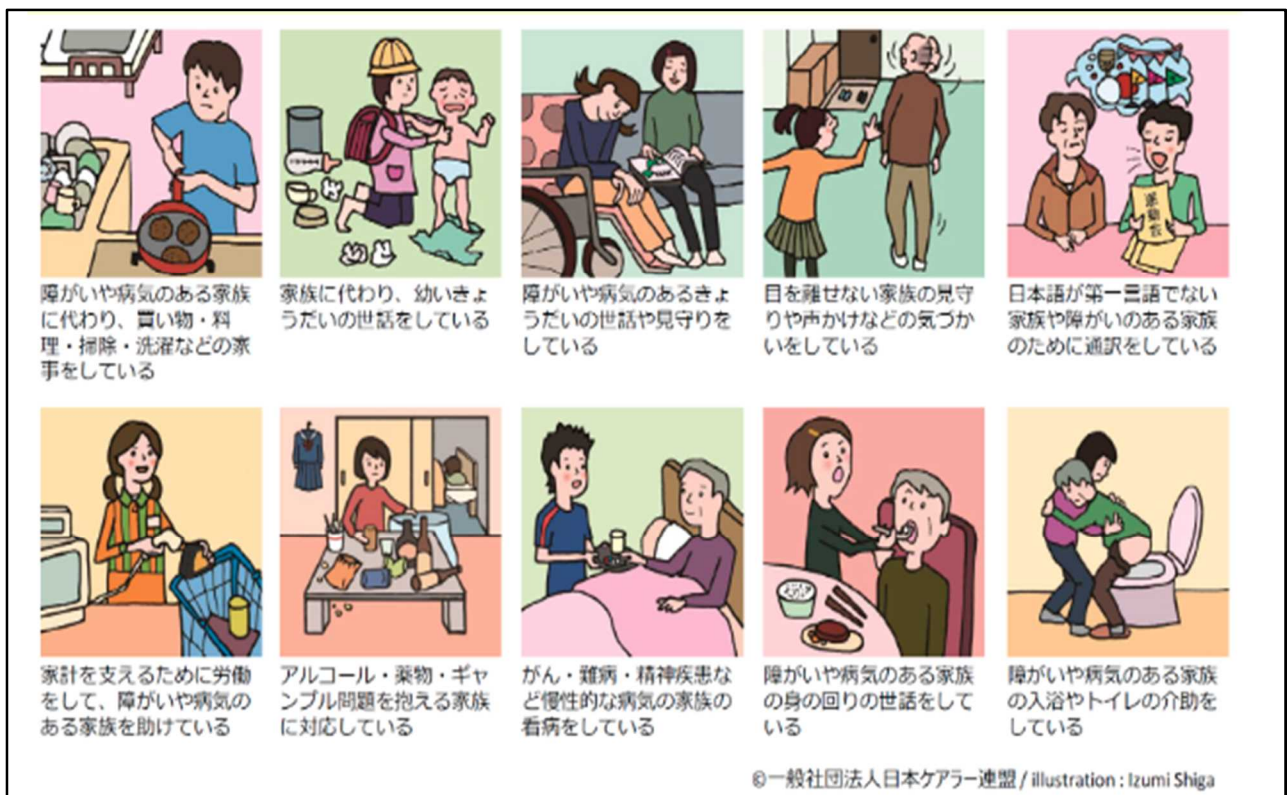
1 ヤングケアラーについて

厚生労働省では、「ヤングケアラーとは、一般に、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っていることで負担を抱える、若しくは子どもの権利が侵害されている可能性がある18歳未満の子ども」と示しています。

ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担があることで、本人の育ちや教育に影響があるといった課題が指摘されており、本来大人が担うべき家事や家族のケアを日常的に行っていることにより、社会が守るべき、子どもの権利が守られていない可能性もあります。

しかしながら、家族のケアなどは、家庭内のプライベートな問題であること、更には本人や家族にその自覚がないなどの理由から、支援が必要であったとしても表面化しにくい構造となっていると考えられます。

ヤングケアラーが日常的に行っているケアについて、同省は10の例を挙げています。



2 調査について

厚生労働省は、令和2年度に「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」を行い、調査に参加した中学校（754校）の46.6%に、ヤングケアラーが「いる」という結果になっています。

また、中学生を対象とした同調査では、「家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか」という質問に対し、「いる」と回答した中学2年生は5.7%にのぼり、これは、回答した中学2年生のうち、17人に1人がヤングケアラーだったということになります。

本市におきましても、令和4年5月に、全市立小・中学校36校に調査を行った結果、ヤングケアラーが「いる」と回答した小学校は5校、「いない」は13校、「わからない」は5校となっており、中学校は「いる」が8校、「いない」が3校、「わからない」が2校となっております。

この度、ヤングケアラーと思われる子どもの生活実態を把握し、ヤングケアラーの早期発見や具体的な支援策を検討する仕組みづくりの検討を行うため、市内の児童・生徒に対してアンケート調査を実施しましたので、その概要を報告するものであります。

3 調査結果について

(1) 調査設計

- ア 調査対象 ・小学6年生の児童 1,972人
・中学2年生の生徒 1,824人
- イ 調査時期 令和4年6月1日～6月16日

(2) 調査内容

- ア 小学生調査 基本調査・普段の生活・家庭や家族のこと
- イ 中学生調査 基本調査・普段の生活・家庭や家族のこと・ヤングケアラーについて

(3) 回収結果

- 小学生回答 1,325件（回収率67.2%）
- 中学生結果 546件（回収率29.9%）

(4) 調査結果 (抜粋)

Q1 世話をしている家族の有無

	いる	いない
児童	11.4% (151人)	85.7% (1,136人)
生徒	7.9% (43人)	89.0% (486人)

●以降、「いる」と回答した児童・生徒のみの回答

Q2 世話に費やす一日当たりの時間

	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上
児童	45.0% (68人)	29.1% (44人)	11.3% (17人)
生徒	39.5% (17人)	18.6% (8人)	11.6% (5人)

Q3 学校の遅刻や早退の状況

	ほとんどしない	たまにする	よくする
児童	62.3% (95人)	21.2% (32人)	1.3% (2人)
生徒	53.5% (23人)	14.0% (6人)	0.4% (1人)

Q4 世話を必要としている家族 (複数回答)

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
児童	23.2%	15.2%	7.9%	4.0%	65.6%
生徒	32.6%	23.3%	25.6%	11.6%	53.5%

Q5 世話を必要としている家族の状況 (複数回答)

	若い	高齢	介護	身体障がい	知的障がい	認知症	言葉	病気
児童	64.2%	9.3%	4.6%	4.0%	1.3%	2.6%	2.6%	2.0%
生徒	41.9%	20.9%	9.3%	7.0%	9.3%	7.0%	4.7%	7.0%

Q6 どのようなお世話をしているか（複数回答）

	見守り	送迎	家事	話を聞く	散歩	入浴等	病院	通訳
児童	39.7%	36.4%	29.8%	24.5%	20.5%	18.5%	5.3%	2.6%
生徒	41.9%	34.9%	41.9%	9.3%	14.0%	7.0%	2.3%	7.0%

Q7 世話を始めた年齢

	6歳以下(就学前)	低学年(7~9歳)	高学年(10~12歳)
児童	29.8%(45人)	31.8%(48人)	27.8%(42人)
生徒	20.9%(9人)	4.7%(2人)	44.2%(19人)

Q8 世話をしている頻度

	ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日
児童	47.0%(70人)	11.9%(18人)	21.2%(32人)	8.6%(13人)
生徒	44.2%(19人)	9.3%(4人)	16.3%(7人)	9.3%(4人)

Q9 平日一日当たりの世화에費やす時間

	7時間以上	3~7時間以上	3時間未満
児童	11.3%(17人)	29.2%(44人)	45.0%(68人)
生徒	11.6%(5人)	18.6%(8人)	39.5%(17人)

Q10 世話のためにやりたいけれどできないこと（複数回答）

	自分の時間	遊ぶ時間	睡眠時間	宿題・勉強	習い事・部活	特にない
児童	18.5%	9.3%	7.9%	5.3%	1.3%	62.3%
生徒	18.6%	9.3%	9.3%	18.6%	4.7%	46.5%

Q11 大変さの感じ方（複数回答）

	精神面で大変	時間の余裕がない	体力面で大変	特に感じない
児童	25.2%	16.6%	15.2%	51.0%
生徒	14.0%	18.6%	14.0%	48.8%

Q12 世話について誰かに相談したことの有無

	ある	ない
児童	21.9% (33人)	69.5% (105人)
生徒	11.6% (5人)	74.4% (32人)

Q13 世話についての相談相手（複数回答）※上記「ある」と答えた人のみ

	家族	友達	保健室の先生	学校の先生	病院関係	近所
児童	78.8%	48.5%	9.1%	3.0%	3.0%	3.0%
生徒	40.0%	80.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%

Q14 相談したことがない理由（複数回答）※上記「ない」と答えた人のみ

	児童	生徒
誰かに相談するほどの悩みではない	72.4%	59.4%
家族ことのため話しにくい	8.6%	21.9%
家族に対して偏見を持たれたくない	-	15.6%
相談できる人が身近にいない	5.7%	12.5%
家族のことを知られたくない	-	12.5%
相談しても状況が変わるとは思えない	16.2%	12.5%
家族以外の人に相談するような悩みではない	-	3.1%
誰に相談するのがよいかわからない	5.7%	3.1%

Q15 学校や大人にしてもらいたいこと（複数回答）

	児童	生徒
自由に使える時間がほしい	21.9%	11.6%
自分の状況について話を聞いてほしい	15.2%	11.6%
勉強を教えてほしい	12.6%	16.3%
お金の面で支援してほしい	11.3%	9.3%
お世話の全てを誰かに代わってほしい	4.6%	2.3%
お世話の一部を誰かに代わってほしい	2.6%	4.7%
お世話について相談にのってほしい	2.6%	2.3%
病気やお世話のことを分かりやすく説明してほしい	1.3%	2.3%
進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	-	11.6%

【自由意見抜粋】

- 話せる場所を作ったり、お金がかからずに話せたりしたらとても良い。
- いつもお世話していることを、もっとほめてほしい。
- 困ったときに相談できる場所があったら良いと思う。
- 週に何回かお世話を代わってあげるサービス。
- 悩みを伝えるときに、誰にも言わないでほしい。
- 自分の気持ちを分かってほしい。
- 世話をしていると勉強ができず、もぞもぞしてしまいます。
- 勉強を教えてほしい。

Q16 あなたは「ヤングケアラー」に当てはまるか（生徒のみ） ※n=546人

	当てはまる	当てはまらない	分からない
生徒	1.6% (8人)	84.1% (460人)	11.7% (64人)

Q17 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか（生徒のみ） ※n=546人

	生徒
聞いたことがあり内容も知っている	18.5% (101人)
聞いたことがあるが、よく知らない	16.1% (88人)
聞いたことがない	62.5% (341人)

【自由意見抜粋】

- 〈ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや要望等〉
- 個別に話を聞いて、その人に合った援助をする。
 - 自分自身がヤングケアラーと自覚するためにも、広くPRした方が良い。
 - 学校でヤングケアラーについて説明する。
 - ヤングケアラーの代わりをしてくれる団体が必要だと思う。
 - ヤングケアラーの家庭に給付金を支給することが必要だと思います。
 - 一人で抱えずに、相談できる場所に助けを求められる仕組みが必要。
 - 「大丈夫？」の一言で安心する人もいます。環境づくりが必要。
 - 地域の方々と関わりを持ち、家庭の状況を知ってもらう。